

第5回

「この世はどのようにしてできたか？」

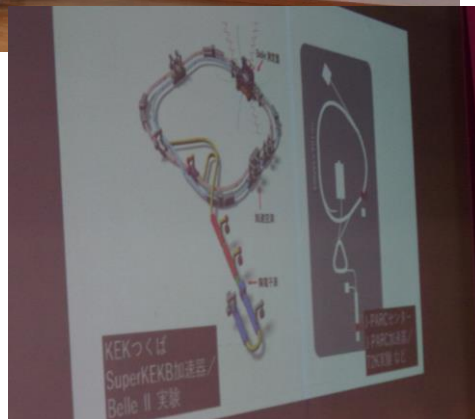
宇宙の起源を紐解く

平成29年12月10日

講師：高エネルギー加速器研究機構

名誉教授 ^{たかさき}高崎 ^{ふみひこ}史彦 氏

講師は、佐野市出身の物理学者で、粒子加速器による衝突実験により「CP 対称性の破れの起源」の理論を検証した。その結果、理論を立てた小林、益川両博士にノーベル物理学賞が与えられた。（もしも、受賞者数が3名に限定されていなければ、高崎氏も授与されたであろう。）その功績に対して2017年の学士院賞が送られた。素粒子について一般市民からの強い開催希望もあって、南極観測、重力波に続く科学シリーズの講座の一つとして企画した。講演では、対象の物理サイズが原子核を形成する素粒子の10-16cm から数億光年の広がり(1030cm)を持つ超巨大宇宙であること、物質が大きい方から並べて結晶、分子、原子、原子核と電子、クォークで構成されていること、そして自らが担当された実験でこの世に反粒子が少ない証拠を示せたことの訥々とした説明に、皆納得。これで解明できたのは宇宙の高々4%程度で、残りは暗黒物質や暗黒エネルギーと呼ばれ、究めたい事がたくさんあると述べられた。若者たちにも聞かせたい講義だった。



○参加者の感想・意見について（主なもの）

- ・ 壮大な宇宙の話が非常に分かりやすくユニークにして頂き、とても楽しい講座でした。とても明快な解説でしたが、使用していたスライドをプリントしたパンフレットなどが欲しいなと思いました。
- ・ 足利から参加させていただきました。足利にもお知らせいただきありがとうございます。KEK（高エネルギー加速器研究機構）のオープン見学に行ったことがあります。せっかく、佐野出身の高崎先生がいらっしゃるの、ぜひバスなどで現場に行くと加速器も見られ、そこで説明や先生の講演はもっといいかと思います。